

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475100838	事業の開始年月日	平成17年11月1日
		指定年月日	平成17年11月11日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家新川崎		
所在地	(212-0054) 神奈川県川崎市幸区小倉3丁目12-2		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和7年10月20日	評価結果 市町村受理日	令和8年3月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様皆様が安心して暮らせる様な環境づくりを目指しています。ご利用者様の心情に寄り添い、不安を解消出来るようにまず傾聴することを第一としています。その上で毎日のレクリエーションや、外出・散歩・買い物などで好きな事ややりたいことを続けられる様な支援を行っています。特に健康増進の為の体操に力を入れており、月に3回ペースでリモート運動教室を開催し、3か月に一度はインストラクターの先生が来設されご利用者のほとんどの方にご参加頂き、楽しみながら運動していただいております。合同お誕生日会に伴い、おやつレク企画につきましては、ご利用者にも一部参加していただき、食生活にメリハリのある独自のイベントとしています。職員のペースで動いてもらうのではなく、ご自分で行動を選択し決定出来る様な余裕ある生活リズムを目指しています。感染症等での不安が解消できるようホーム内が笑顔でいられるよう明るいホームを心掛けています。現在お看取りのご利用者様5名に対し、ご本人とご家族様に真摯に向き合い、出来る限りチーム一丸となって精一杯のケアをさせていただいております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和7年11月4日	評価機関 評価決定日	令和8年2月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所はJR東海道線「川崎」駅西口から臨港バスで約20分、「小倉」バス停下車徒歩5分、またはJR横須賀線「新川崎」駅から徒歩約20分程の住宅地に立地している。鉄骨造り2階建ての2ユニットのグループホームの周辺には保育園、小学校、公園、コンビニエンスストアなどがあり、利便性に優れた環境にある。運営法人は、大手総合警備保障会社のグループ会社であり、特に利用者の安心・安全には十分配慮している。 【利用者主体の支援の実践】 利用者一人ひとりの意向を大切に、まずは傾聴することを心掛けている。職員はレクリエーションや散歩、買い物など、利用者の意向の把握に努め、実現できるように常に笑顔を手掛けて、利用者に寄り添う支援を実践している。利用者は、おやつ作りに参加したり、食事の後の下膳、食器やコップの拭き取りなど、自主的に出来ることを手伝っている。職員は、アットホームな環境下、のんびりと自分のペースで暮らす利用者各々を温かく見守っている。 【利用者の健康増進の推進】 法人の「健康増進プログラム」を実践している。プログラムのひとつである認知症と寝たきり予防に特化した脳と足の機能向上のノーアエクササイズを始め、ALSOK安心体操、いきいきリズム体操、ALSOKあんしんヨガ、タオル体操、シニアセラピーなどを、動画を用いたリモートまたはインストラクターが来所し、実施している。職員の支援の下、2ユニットの利用者が合同で楽しみながら身体を動かして健康増進に努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームみんなの家新川崎
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホームみんなの家新川崎
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感染症の後から地域と交流が途切れその後から地域活動が行えていない。	事業所理念の「地域と密着した笑顔が溢れるホーム」は、開設時に管理者と職員が作った。事務所などに掲示して、職員が常に確認出来るようにしている。管理者は、利用者の立場で考え、利用者はもとより、外部の人たちに対しても笑顔で接するよう常に指導している。特に挨拶は笑顔で行うことに注視している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に行えておらず、近隣を散歩に時にあいさつ程度にとどまっている。	下小倉町内会に加入して、回覧板などから地域の情報を収集している。町内会長から直接情報を得ることもある。近隣を散歩している時に挨拶を交わし、地域の方から野菜などをもらっている。地域のお祭りや盆踊り大会などの行事には参加しておらず、事業所の行事にも、地域の方の参加がない。コロナ禍で中止していたボランティアや保育園との交流を、再開できるよう検討している。町内会長が協力を申し出ている。	地域との連携について、コロナ禍で中止をしていましたが、今後は、地域のお祭りや盆踊り大会などの行事に参加を希望します。また事業所の行事にも地域の方の参加を得られるよう働きかけを行うことを希望します。更に、ボランティアや保育園との交流の再開を期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に開かれた支援はしておらず、ご家族様や見学者からの話を聞き相談にのる事はある			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度実施している。要望ではご利用者様の体調に関する配慮を求める意見がありお答えしている。	2ヶ月毎に年6回程、運営推進会議を開催している。メンバーは家族代表、町内会長、地域包括支援センター職員、民生委員、事業所の管理者・職員などである。利用者本人が参加することもある。議題は事業所の活動状況報告、事故報告や行事案内、意見交換などである。利用者家族から災害時の避難場所の確認などがあり、地域の避難場所の説明と事業所内で垂直避難することを伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡は現状取れておらず、今後連携をはかりたいと考える。	窓口の「幸区高齢者障害課」とは、更新手続きなどで相談したり、情報交換をしている。川崎市役所から認知症や実地指導に対する研修の連絡があり、出来る限り、参加するように努めている。「地域交流会」に加入し、他法人のグループホームや医療関連、福祉関連などの事業所とも情報交換をしたり、研修にも参加している。生活保護費の受給者が3名おり、「生活保護課」の職員から電話連絡や年1回の来所による確認がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会の開催を行い研修を行い。知識を新しくする取り組みに努めている。また個人でも観れるイーケアラボで動画視聴で勉強できる環境が整備されている。	身体拘束をしない旨、運営規程等に明記している。3ヶ月に1回「身体拘束適正化検討委員会」をフロア会議の中で開催している。法人から出された課題について話し合っている。また動画配信による「身体拘束適正化のための研修」を年2回実施している（リモート形式）。研修後は、職員間で意見交換して、あてはまることがないかなど検討している。研修報告書を提出することにより、法人は、各職員の受講状況を確認をしている。理解度テストも実施して、知識の定着を図っている。管理者は、特に否定的な言葉遣いをしないよ	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会があり、会議と研修、また個人でも観れるイーケアラボで動画視聴で勉強できる環境が整備されている。	高齢者虐待をしない旨、運営規程等に明記している。身体拘束と同様に「高齢者虐待防止委員会」を開催している。「高齢者虐待防止のための研修」は身体拘束と同様に、動画配信により実施している（リモート形式）。高齢者虐待を万が一にも発見した場合には、即管理者に伝わる体制が整っている。管理者は不適切な言動などがあった場合には、その都度面談をして個別に指導している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	イーケアラボによる動画視聴で個人の勉強する力量による。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明責任をしっかりと自覚し相手に疑問点を尋ねるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年外部評価にて情報公開の機会を設けている。	運営推進会議やその後に行う家族会、ほかにも、来所時や電話などで家族の運営に関する意見や要望を把握している。家族からは利用料金改定などの質問が多く上っている。家族の来所は1ヶ月に1回程度が大半であるが、来所のない家族には電話などで連絡している。毎月「一言通信」を発行して、利用者の状況、服薬情報、歯科健診の情報などを報告している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロア会議などで意見を言う場があり、反映できるかを慎重に精査し反映させる努力をしている。	毎月のフロア会議や申し送りノート、日常の支援の中などで、職員の運営に関する意見や要望を把握している。管理者は個人面談を半年ごと（年2回）行って、意見や要望などを聞いている。新規採用者には法人のマネージャーが、個人面談を半年ごと（年2回）行って、要望などを聞いている。職員からは各ユニット間で「個別介護支援記録」のタブレットへの打ち込み方法や書面などの違いについて指摘があり、統一するようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課が有り。 一人ひとりと面談を行い本人の成果を報告する場を設け、また常日頃職員の様子を見るようにしている。	タイムカードで出退勤管理をして、法人が一括管理をしている。職員の健康面の配慮として、6ヶ月毎の管理者との個人面談時にストレスチェックを行っている。管理者が人事考課の面談を年2回実施して、職員の要望などを把握している。介護福祉士や居宅介護支援専門員などの資格を取得した場合には、賃金に反映するほか、報奨金を支給している。介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修などの受講者には受講料の補助がある。「個別介護支援記録」など日常の記録管理業務にタブレットを導入し、効率アップを図ったことにより、利用者と接する時間が多くなった。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて研修の参加を促している。 現在は会社でも取り組みに力を入れている。	法人がキャリアパスを作成し、職員に明示している。職員は各々が目標を持って日々業務に励んでいる。法人の教育研修課が動画配信による1ヶ月分の研修計画（リモート形式）を作成し、研修内容を10項目程提案している。職員は計画的に、自分が受講したい研修を選び、学んでいる。非常勤の職員も受講ができる。受講後は報告書の提出が義務付けられており、法人が各職員の受講状況を把握してい	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	会社研修制度で実施している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調で本人のニーズの把握に努め入所日からニーズに沿った支援ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や実調の時にご本人だけでなくご家族様にも聴き取りをし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーがご家族様ご本人のニーズをアセスメントでくみ取りご意向に沿ったサービス計画書を作成する。それに沿って介護職員が支援にあたる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	口論になりそうな場合や円滑に話ができるよう職員が間に入る事も有る		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を一言通信などでお伝えし家族にも現状を知ってもらう機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会などはあるが、馴染みの方が来られたケースは少なく、そのような場を設けられたらと考えている。	友人や知人が来所した場合には、1階のテラスや居室に通し、湯茶で、もてなしている。電話の取り次ぎや手紙の投函なども手伝っている。携帯電話を所持している利用者もいる。家族対応で墓参りに行く利用者がいる。編み物や塗り絵などの趣味の継続を支援している。家族が利用者の好みの食べ物の差し入れる際に、他の利用者分も届けてくれることがあり、皆のおやつとして楽しく食べている。管理者は人間関係の広がりが構築されることを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いや役割を持ってもらう事で孤立せずに支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまり行えていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の意見を尊重し、居室などはご本ににとって過ごしやすい場になるように配慮している。	日常の支援の中で利用者の思いや意向の把握に努めている。特に入浴時や散歩時、就寝前などの1対1の場面を大切にしている。収集した情報は、「個別介護支援記録」としてタブレットに打ち込んで、日常の支援や介護計画などに反映させている。発語の困難な利用者には職員が声掛けをし、表情やしぐさなどから推測している。家族から聞くこともある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートで情報共有をし、またご家族やご本人からの昔話を聞くようにしているが、聞いた話を他の職員に情報共有されないこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護ソフトを使用し記録を取り把握に努めている		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議をしてアセスメントをとり改善に努めている	先ずはフェイスシートを活用してアセスメントを実施し、把握した内容から介護計画を作成している。フロア会議でのサービス担当者会議でモニタリングを行い、職員間で情報共有している。見直しは短期は6ヶ月、長期は1年とし、変化のある場合にはその都度見直している。医師や看護師の意見は往診時の「往診記録」などから把握しており、利用者・家族の意向も反映させて作成している。日々の「個別介護支援記録」は介護計画のサービス内容と連動させて、対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトの記録や会議し情報共有に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組みたいと考えている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまり行えていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との体制はとれており、もし入居前のかかりつけ医との関係を継続したい場合はご家族の協力を仰ぎながら支援させていただいている。	協力医療機関は内科と皮膚科、精神科を併設しており、内科医が月2回往診している。歯科医は月2回、歯科衛生士は毎週来所し、口腔ケアを実施している。家族対応で整形外科、眼科に通院している利用者もいる。法人内のナースステーションから訪問看護師の派遣があり、毎週来所のうえ、健康管理をしている。必要があれば、毎日でも看護師が来所している。訪問マッサージを受けている利用者がある。往診内容は「往診記録」としてタブレットに打ち込み、情報共有している。協力医（内科医）とは24時間オンラインでいつでも連絡が取れる体制が整っている。また毎月会議を開催し情報交換している。薬剤は往診の直後、薬剤師が一包化したものを届けてくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師連絡記録を活用し支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後には病院のケースワーカーに連絡をし状態の把握に努めている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し、医師から回復の見込みがないと診断されたときにはご家族にお伝えし、最後までこちらの施設をご利用されるか意見を聞き、ご利用される場合には看取り契約をして最後まで支援に努める	契約時に「看取り介護指針」を説明し、「看取りに関する事前意思確認書」を交わしている。看取り期には、医師の判断により、家族、管理者などが集まり、家族の意向を再度確認して同意書を交わし、「看取り介護計画」を作成し、「看取り介護マニュアル」に基づいて看取りケアを実施している。研修は管理者が必要に応じてフロア会議内で行っている。振り返りは、フロア会議内で、管理者が中心となり話し合い、確認している。本年度1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行えていないが施設長に相談やかかりつけ医に連絡し指示を仰ぎ対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。	年2回の夜間を想定した避難訓練を実施している。事業所の避難訓練には、地域の方の参加はなく、地域の避難訓練には、事業所からの参加がない。ハザードマップで水害の指定地域となっており、「避難確保計画」を作成し、「川崎市危機管理本部」に書面で報告している。BCP（事業継続計画）を作成し、研修と机上訓練を行っている。備蓄は飲料水やレトルト食品、カセットコンロやボンベ、医療品、衛生用品、日用品など備蓄している。家具などには突っ張り棒を施して、転倒防止を図っている。玄関にはAED（自動体外式除細動器）を設置して、緊急時に備えている。	鶴見川と多摩川に挟まれて、ハザードマップの水害指定地域に指定されています。事業所の避難訓練に地域の方の参加を、地域の避難訓練には事業所の職員の参加を希望します。BCP（事業継続計画）では、机上の訓練だけでなく実際の訓練と組み合わせながら実施することを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止研修の時などに自信の日ごろを振り返り声掛けについて考えてもらうように伝えている。それを現場で実践している。	個人情報保護やプライバシー保護については、動画配信によるリモート研修を実施し、職員は自由な時間に受講している。職員は、高齢者を敬う心を忘れないように心掛けている。利用者の呼称は名字に「さん」付けとしている。トイレ誘導時には小声で周囲に気づかれないように声掛けをしている。個人情報を含む書類は事務所のカギの掛かるキャビネットに保管している。パソコンやタブレットは、パスワードで管理している。SNS対策として、個人情報や、事業所の情報などを配信しないように指導している。入社時に個人情報保護についての誓約書の提出を義務づけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択やお手伝いをして頂けるか本にの意思確認をし自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの参加などはご自身の希望を伺い、参加はしたくないが見ていたいなどの場合は希望に沿っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶ事が出来る方は選んでいただくが難しい方はこちらの裁量になる事が多く、また失禁などで衣類が汚れた場合には職員が選んでしまう事がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けでは食器拭きをお願いするなど食べっぱなしではなく一緒に行うようにしている。	配食業者が土日を除いた毎日、献立に基づいたレトルト食材を配達している。献立は、利用者の意向を反映させている。職員は湯煎をして盛り付け、ご飯とみそ汁を作っている。利用者は下膳、食器やコップの拭き取りを手伝っている。外食は家族対応としている。正月にはおせち料理、クリスマスや誕生日会にはケーキを購入・提供して、食事を楽しむ支援をしている。誕生日会には該当する利用者は好みの物を食べている。利用者の体調に応じて、きざみ食やとろみ食にも対応している。おやつ作りを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の時以外に2回水分提供をしている。またご自身が喉乾いたといわれたときにはお茶等を用意する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者の排泄前のきっかけをつかむようにし、その時にはトイレに誘導するようにしている。また定時排泄で排泄を促すことや汚れた場合にもこの時間の時には奇麗になるとわかってもらえるよう定時誘導している。	布パンツを使用して、ひとりでトイレに行く利用者が5名、他の利用者はリハビリパンツとパッドを使用している。基本的には排泄パターンを把握し、声を掛けてトイレ誘導しており、自立支援という意味合いで、必要以上に介助しすぎないように心掛けている。夜間のみ、安全のためにポータブルトイレを使用する利用者がいる。入院中、紙おむつを使用していた利用者が退院後に、支援の結果、リハビリパンツとパッドを使用してトイレでの排泄が可能になった改善事例がある。各フロアに車いす対応のトイレを3ヶ所設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ここでの運動はあまり出来ないがご飯前に口腔体操やNoa体操を全員で行うようにしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	行えていない	入浴は週2回・午後の入浴を基本としている。要望があればいつでも入れるように、出来る限り対応している。同性介助にも対応している。入浴を好まない利用者には、担当者を変えたり、時間を空けて声を掛けている。時には翌日に変更することもある。1階はリフト浴、2階は個室となっている。利用者は、入浴剤（ゆずの香り）や菖蒲湯などを楽しんでいる。鼻歌を歌う利用者もいる。ヒートショック対策として、浴室、脱衣所ともエアコンを使用している。お湯は入浴する時間の間隔が空いた場合には毎回入れ替えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休息がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬票を個人ごとにファイリングし理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いや役割を持ってもらえるように努めている。また空き時間などに塗り絵が好きなご利用者様には塗り絵を提供することや職員とお話しをし気分転換できることもある。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状ではできていない	天気の良い日は近隣を20分程度散歩している。車いすの利用者も一緒に出掛けている。利用者の体調や職員のシフトを確認して、出来る限り散歩の時間が取れるように努めている。家族対応で外出をする利用者もいる。近くのコンビニエンスストアに買い物に出掛ける利用者もいる。コロナ禍で中止している花見のほか、地域のお祭りや盆踊り大会への参加を検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状ではできていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	している。 ご利用者様で携帯電話を持っている方もいるので、通話状態にしてからご本人に渡すなど制限をしないように努めている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理したいが、荷物が多く片付けが出来ていない。	広々としたリビングには加湿器、空気清浄機があり、ソファも備えられている。掃除は職員が行っており、夜間の清掃時には、手すりなどの消毒も行っている。換気は毎朝窓を開けるようにしている。壁には利用者の塗り絵作品、春は入学式、ひな人形など季節行事の飾りつけ作品、利用者の顔写真を組み込んだ、職員手作りの作品などを掲示している。クリスマス飾りも準備されて季節感を感じることができる。正月には玄関に正月飾りを、各ユニットには鏡餅を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階にだがテラスと称して少人数で話ができる場の用意をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のご意向を尊重し過ごしやすいうようにして頂いている	エアコン、カーテン、照明、クローゼット、整理タンス、ベッド、洗面台が備え付けられている。利用者は使い慣れた机やいす、家族の写真、テレビに仏壇、衣装ケースなど好みの物を自由に持ち込んでいる。火器類などの危険物や誤飲や食中毒などの心配から冷蔵庫の持ち込みを禁止している。居室の清掃は職員が行っており、季節の衣替えは家族が対応している。安全のため人感センサーを使用している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の表記やピクトグラム、手摺などを設置している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみんなの家新川崎

作成日 令和8年2月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域とのつながりが希薄な状態であり、地域交流会には参加しているものの実践活動に馴染されていない。	事業所自体が地域の一員として、町内会のイベント等にご利用者とともに参加していく事を目指す。	地域交流会を通じて、地域とのつながりを構築し、運営推進会議を通じて、ご家族、民生委員の協力を得ながら地道に働きかけを行う。	12ヶ月
2	16	災害時、避難誘導等の近隣住民及び町内会の協力体制が整っていない。	近隣住民及び、町内会の参加協力を得た避難訓練の継続的な実施。	町内会及び民生委員を通じて参加協力を働き掛ける。	12ヶ月
3	21	日常的な外出支援が、ご利用者の個々の要望に乗っ取って、出来切れていない。	定期的にご利用者本人の希望にのっとり、計画的な外気浴支援をしている。	ご利用者個々の要望を聴き取りし、外気浴実施計画表を作成し、それに準じて、無理なく実行できる時間帯の捻出及び環境を構築する。	6ヶ月
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。